

①民谷地区の現状 - 人口・拠点施設

- 担い手組織

人口：159人  
(2018年住民基本台帳)  
高齢化率：46.54% (〃)

拠点施設：民谷交流センター  
商店：なし  
学校：なし  
郵便局等の公共施設：なし  
雲南市中心部への距離：  
約30分(自動車)

民谷地区振興協議会

- ・ 地区外との交流イベント等が充実  
(田植え体験・稲刈り体験など)
- ・ 高齢者見守り活動「黄色い旗運動」を推進
- ・ 移動販売車の誘致による買い物支援を実施
- ・ 総じて地域づくりに熱心な住民が多い

②民谷地区の課題

□定住促進・関係人口拡大、地域産業の振興等の取組みが進んでいない。

③支援状況

定住支援：

- ・ 民谷サポーターズクラブの運営支援  
(クラブ会員への情報提供の一環で、地区内企業・団体の活動を紹介する広報誌を作成)

産業振興：

- ・ 自主組織と地区内の営農組合などで構成し、農業の活性化等について話し合う「民谷地区の地域振興に関する会議」の運営支援

交流センター改修関連：

- ・ 食品加工場整備法令調査

④成果見込み

ふるさと広報誌「みんなに通信」発行

- ・ 主に出身者が対象
- ・ 10月に第1号発行・発送。
- ・ 新年度も順次発送予定

地区内の連携促進と話し合いの継続

- ・ 「産業振興」は長期的な課題であり、すぐには結論は出ないが、今後もこうした話し合いの場を継続する予定である。

交流センター機能の議論の進展

- ・ 交流センター改修に伴い、食品加工施設を組み込むか否かが検討されたが、同施設は組み込まない方向で決着がついた。

⑤残る課題

(1) 雇用の場の創出

- ・ 農業の維持・活性化と結び付けた雇用の場の創出

(2) 産業振興のさらなる継続

- ・ 地区内には、竹炭蓄電器開発を進める「里山照らし隊」という団体があり、この団体を中心としたエネルギー関連産業の振興や、それに関連する関係人口拡大が望まれる

乗り越えるには？

雇用の場の創出や産業振興は、自主組織だけでは担えない難しいテーマ。地区内の他団体(営農組合など)との連携や、近隣他地区との広域連携による枠組みづくりが必要と思われる。

総括

- ◆ 高齢者見守り・買い物支援等の「守りの地域づくり」はすでに進めており、産業振興等の「攻めの地域づくり」をどう進めるか、その方向性を模索している過渡期にある。
- ◆ どのような将来像を描き、ゴールを設定し行動していくか、人口規模の小さい地区ならではの特徴を活かした、民谷地区の現状に合った取組みが求められる。